JICA 国際緊急援助隊感染症対策チーム作業部会会合（コンゴ民主共和国へ初派遣された成果報告会）に参加しました（2016/8/30）

テーマ：感染症対応・アウトブレイク・国際緊急援助隊
場　所：東京都千代田区泉館三番町ビル会議室

JICA 国際緊急援助隊（JDR）はアフリカでの黄熱病の流行[1]対策を支援するため、7 月 10 日に調査チームをコンゴ民主共和国に派遣、その後 7 月 20 日、昨年 10 月に創設された感染症対策チーム[2]を初めて派遣し、主に以下の 3 つの活動を現地で展開しました。

1） 保健省幹部へのアドバイス
2） 感染症検査のための技術支援
3） 黄熱ワクチン接種キャンペーンの支援

同チームは現地で支援活動する WHO やユニセフ、米国疾病予防管理センター、国境なき医師団などとも連携しながら、日本の感染症対策の経験と知見を生かした支援活動を展開してきました。

今回、当研究所の児玉教授（災害医学研究部門 災害感染症学分野）は JICA 国際緊急援助隊感染症対策チーム作業部会の全体会合に参加し、コンゴ民主共和国派遣によって得られた成果や問題点について意見交換を行って参りました。

[1] 2015 年 12 月以降、アンゴラ、ウガンダ、コンゴ民主共和国などで黄熱病が流行。特にコンゴ民主共和国では 2016 年 3 月以降 7 月 20 日までに、首都のあるキンシャサ特別州を含む 5 州で 1,900 人を超える患者（疑い症例を含む）が確認されており、うち 95 人は死亡している。黄熱病は、ネッタイシマカが媒介する感染症で、発熱や頭痛、吐き気などが主な症状で、治療は対症療法に留まるが、ワクチンで予防可能である。

[2] 感染症対策チームは、世界規模の課題となっている感染症の対策で、日本の人材面での貢献を実現するために創設。外務省職員、JICA 職員、感染症専門家らで構成し、感染症による被害を最小限に抑えるための活動を行う。

JICA から公開されている情報
http://www.jica.go.jp/topics/2016/20160805_01.html
http://www.jica.go.jp/information/jdrt/2016/20160719.html

文責：児玉　栄一（災害医学研究部門）